

5. 芝川地域における地域公共交通の課題と基本方針

- 5－1. 芝川地域における公共交通の課題
- 5－2. 課題に対する基本方針
- 5－3. 基本方針と目標の整理

5-1. 芝川地域における公共交通の課題

芝川地域の公共交通の課題を次のとおり整理する。

1) 地域特性や公共交通の現状からみた課題

A. 運賃収入の減少に伴う財政負担額の増加

芝川バスの運行に係る一人当たり経費は1,101円となっており、旧富士宮市の一人当たり経費(154円)を大きく上回っている。

また、平成18年度以降、芝川バスの利用者は減少傾向にあり、運賃収入についても同様に減少傾向にある。そのため、平成21年度の運行経費に占める市の支出額の割合は約60%となっている。一方で、収支率は約22%まで低下し、市の財政を圧迫している。

このような状況から、効率的な運行を図ることで、持続可能な交通体系を構築する必要がある。

B. 高齢者等への対応

芝川地域の高齢者数は当面上昇するものと予測され、高齢化率についても、旧富士宮市や静岡県よりも高く、将来的には高齢化率が40%を超えるものと予測されている。一方、1世帯当たりの人員は減少傾向にあるため、今後の高齢者の単独世帯の増加も想定される。このことから、将来的には、日常の移動手段を公共交通に頼らざるを得ない高齢者が多くなるものと考えられる。

そのため、現在の高齢者に対する移動手段の確保とともに、将来的な高齢者数の増加への対応のため、確保した移動手段の維持が課題となる。

C. 公共交通空白地域への対応

現在、芝川地域には民間のバス事業者が運行する柚野線と芝川バスの計4路線が運行しているが、図3-8に示すとおり、依然として多くの公共交通空白地域が存在している。これら空白地域の多くは、比較的広範囲に分散しており、周辺の道路も狭隘なものが多くなっている。

また、住民アンケートにおいても今後の芝川バスの対応としては「限られた予算の中で多くの方が利用できるよう、新たな交通システムの導入を検討する」が最も多くなっている。

このような状況を踏まえ、公共交通空白地域を含めより多くの方が、日常生活を送る上で必要不可欠な公共交通サービスの提供が受けられるような運行形態の検討が必要となる。

D. 日常の移動ニーズを踏まえた交通体系

住民アンケートの結果から、芝川地域の住民の多くは、日常の移動の目的地を旧富士宮市内としている方が多い。この状況は第1回岳南都市圏パーソントリップ調査の結果からも同様の結果が見て取れる。特に柚野地区は芝川駅よりも西富士宮駅のほうが近いことなどから旧富士宮市内を日常の目的地としている方が多いものと考えられる。

また、芝川バスを利用しない理由でも、「運行ルートや行き先が目的地に合わないため」が多くなっており、地域のニーズにあった目的地に、出来るだけ容易に移動できるような交通体系を構築する必要がある。

2) 引き続き対応が求められる課題

E. 買い物、通院等の日常の移動手段の確保

芝川バスの利用者アンケート及び住民アンケートの結果から、芝川バスの利用目的の多くは、「買い物」や「通院」であり、その目的での利用者は高齢者が中心であると考えられる。

そのため、今後も「買い物」や「通院」に利用できるよう、必要最小限の生活交通の確保・維持が求められる。

F. 通学時の移動手段の確保

上記のとおり、芝川バスの利用の中心は、「買い物」や「通院」を目的とした高齢者であるが、南北に長いといった芝川地域の地理的条件等から、「通学」を目的とした利用者も存在する。特に、芝川バスの利用者の年齢は60歳以上の高齢者に次いで10歳代が多くなっていることから「通学」での利用も多いものと考えられる。図3-4で示した時間帯別の利用状況にあるように、柚野線において特にこの傾向が強いものと考えられる。

そのため、今後も「通学」時に利用できる公共交通の確保が求められる。

5-2. 課題に対する基本方針

芝川地域の公共交通の課題への対応を図るため、次のとおり5つの基本方針を設定し、『芝川地域の公共交通の再編による機能的かつ持続可能な交通体系の構築』を目指す。

地域特性や公共交通の現状からみた課題

- A. 運賃収入の減少に伴う財政負担額の増加
- B. 高齢者等への対応
- C. 公共交通空白地域への対応
- D. 日常の移動ニーズを踏まえた交通体系

引き続き対応が求められる課題

- E. 買い物、通院等の日常の移動手段の確保
- F. 通学時の移動手段の確保

『芝川地域の持続可能な公共交通の実現』

■ 基 本 方 針 ■

1. 誰もが利用できる公共交通網の維持
2. 高齢者をはじめ、地域住民の足となる公共交通体系の整備
3. 財政負担を抑えた公共交通の仕組みづくり
4. 公共交通の利用環境の向上
5. 市民・交通事業者・行政の適切な役割分担による、持続可能な交通体系の実現

5-3. 基本方針と目標の整理

課題に対する5つの基本方針に対し、下記のとおり目標を設定する。また、次章において目標を達成するための具体的方策について検討を行い、「富士宮市芝川地域公共交通総合連携計画」に位置付ける事業として取りまとめる。

